

長野県松本市

松本城下町跡

*ISEMACHI*  
**伊勢町** 第23・24・25次

—平成12年度試掘調査報告書—

**2001.3**

松本市教育委員会

## 例 言

---

1. 本書は、平成12年度に実施した松本城下町跡伊勢町の埋蔵文化財試掘調査報告書である。
2. 本調査は中央西土地区画整理事業の個人店舗建設に伴う試掘調査で、国庫補助事業として実施したものである。
3. 本調査および本書の作成は、松本市教育委員会が実施した。
4. 平成12年度は3件の調査を実施した。このうち、本文では伊勢町第25次調査を報告する。
5. 各調査の担当者は、以下のとおりである。  
伊勢町23次：小山高志、荒木龍、櫻井了、伊勢町24次、伊勢町25次：澤柳秀利、加島泰祐
6. 本書の執筆・編集は澤柳秀利が行った。
7. 本書の写真撮影は、現場を調査担当者、遺物を宮嶋洋一が担当した。
8. 遺構番号は、各検出面ごとに1から付してある。
9. 出土遺物・図面・写真類は、松本市教育委員会が所有し、松本市立考古博物館（〒390-0823 長野県松本市大字中山3738番地1 TEL 0263-86-4710）が保管している。

## 調査体制

---

**調査団長** 松本市教育長 竹淵公章

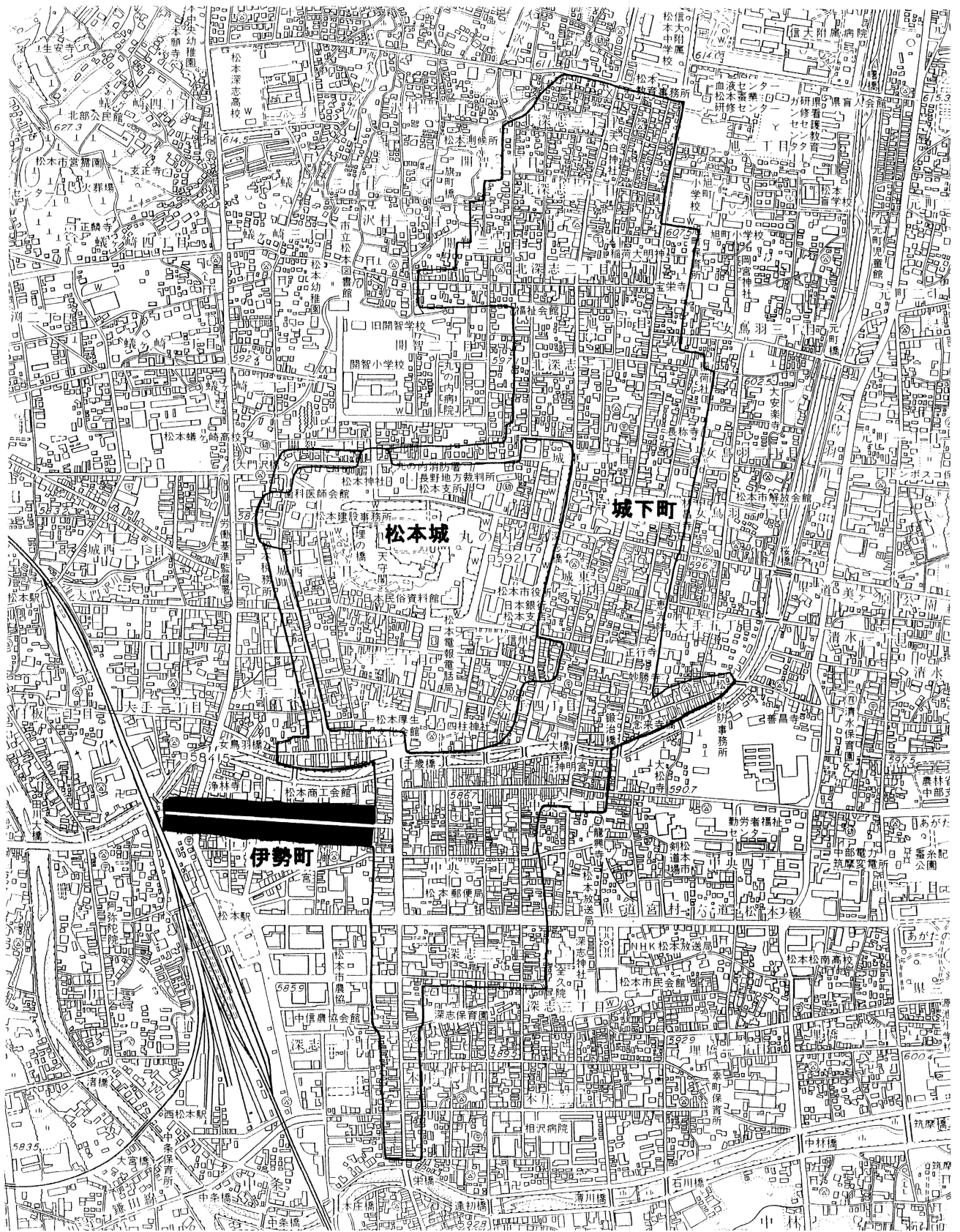
**調査担当者** 澤柳秀利、小山高志、荒木龍、加島泰祐、櫻井了

**調査員** 今村克、宮嶋洋一、森義直

**協力者** 荒木稔、飯田三男、五十嵐周子、石合英子、石井脩二、石川光男、内沢紀代子、大月八十喜、岡村行夫、菊池直哉、久保田登子、窪田瑞恵、河野清司、小山貴広、清水陽子、下条ちか子、竹内直美、竹平悦子、田中一雄、中谷高志、中村恵子、林和子、廣田早和子、福島勝、洞沢文江、待井敏夫、松尾明恵、宮田美智子、村山牧枝、百瀬二三子、山崎照友、渡邊順子

**事務局**

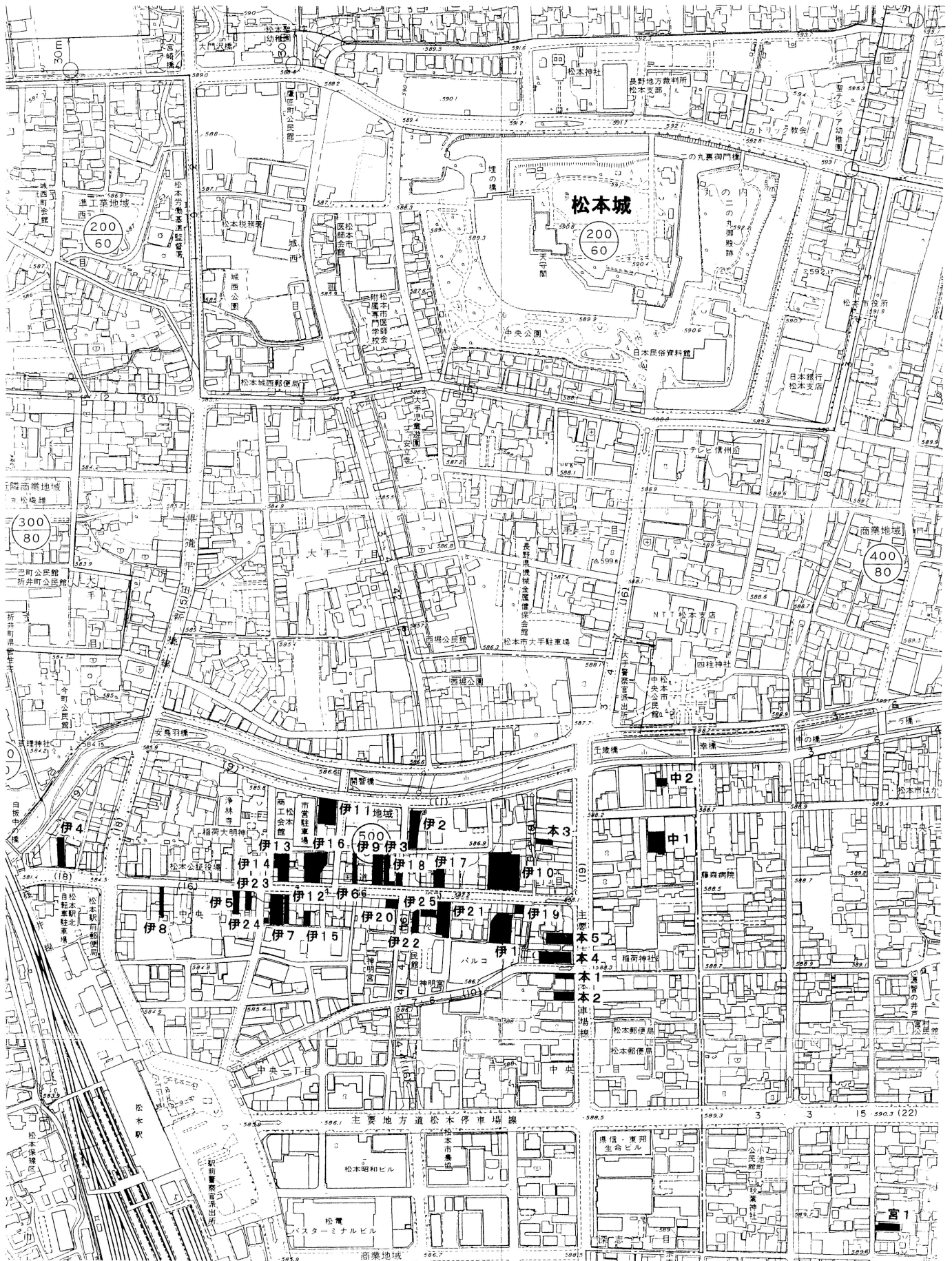
松本市教育委員会：木下雅文（文化課長）、熊谷康治（文化課長補佐）、松井敬治（文化財担当係長）、久保田剛、武井義正、酒井まゆみ（～H 12.6.30）、渡邊陽子（H 12.7.1～）



黒塗り部分が伊勢町の範囲

S=1 : 1,250

第1図 遺跡の位置



伊1～伊25：伊勢町調査地点  
 本1～本5：本町調査地点  
 中1～中2：中町調査地点  
 宮1：宮村町調査地点

S=1:5,000

第2図 調査地の位置

## 1 平成12年度松本城下町の発掘調査概要

松本城下町跡の試掘調査は、平成12年度には3件実施した(第1表)。これらの調査はいずれも中央西土地区画整理事業地内の個人店舗建設に伴う緊急発掘調査で、国庫補助事業として実施した。これらの調査箇所は、松本城下町跡の伊勢町にあたる。各調査地点の概要は以下のとおりである。

### 伊勢町第23次調査

伊勢町西半部、通りの南側にあたる。17世紀から19世紀とみられる整地層7面を調査した。周辺に多く存在したとされる鍛冶屋の遺構を、調査区北半部において確認した。遺構として2基の鍛冶炉、鉄滓投棄土坑が検出され、多量の鉄滓、ふいごの羽口といったものが出土している。敷地内での明確な建物構成、範囲こそ明らかにできなかったが、敷地内を南北に通しで調査することができたため、北側部分の通りに面した母屋部分に鍛冶炉があり、作業場となっていること、裏手にゴミ穴があって鉄滓などを投棄していたこと、などの状況を明らかにすることができた。時期について、鍛冶遺構は18世紀後半から19世紀、下層の遺構は、明銭の他に16世紀に属する遺物が出土しているの、16世紀末までさかのぼる可能性がある。

### 伊勢町第24次調査

伊勢町西半部、通りの南側、第23次調査地点の東側にあたる。17世紀から19世紀とみられる整地層5面を調査した。敷地内のうち、裏側部分の一部の調査であったため、確認できた遺構は19世紀頃とみられる建物址の一部の他は、土坑などを中心としている。鍛冶遺構については、鍛冶炉自体を検出することはできなかったが、4面以下の土坑(ゴミ穴)から鉄滓が出土していることから考えると、ここも鍛冶屋であった可能性はある。この周辺には、やはり多くの鍛冶職人が住んでいたと考える。

### 伊勢町第25次調査

伊勢町東半部、通りの南側にあたり、本調査地の東隣を第21次調査、西隣を第22次調査として平成11年度に調査を実施している。中世12世紀から江戸時代19世紀にかけての整地層9面を確認し、うち7面を調査した。江戸時代後期18～19世紀の3、4面では、鍛冶炉が良好な状態で検出され、伊勢町に多く存在していたとされる鍛冶屋の存在を示す資料となっている。また、8面以下で検出された多くのピットは、中世12～13世紀にかけての建物址の柱穴であるとみられる。また、縦穴状遺構、ピットからは中世遺物の出土がみられることから、深志城以前の時代に存在した中世の集落址であると考えられる。昨年度実施した第21次調査の結果、また第1次、第17次調査での所見を踏まえて、この中世の遺構を、松本城下町跡とは別して、伊勢町遺跡として新たに認定することとなった。

第1表 伊勢町調査一覧

調査回数	所在地	原因事業	調査期間	調査面積 (㎡)
23	松本市中央1-8-14	区画整理個人店舗建設	H12.5/22～6/5	238.5 (全7面)
24	松本市中央1-7-3	区画整理個人店舗建設	H12.6/3～6/12	12.3 (×5面)
25	松本市中央2-2-7～8	区画整理個人店舗建設	H12.10/2～10/21	467.5 (全7面)

## 2 伊勢町第25次調査の概要

### (1) はじめに

本調査は、松本市中央2丁目2番7～8号において、中央西土地区画整理事業に伴って実施した緊急発掘調査である。調査期間は平成12年10月2日～10月21日、調査面積は延べ467.5㎡を測る。調査地一帯は、松本城下町跡の町人地である伊勢町にあたる。この伊勢町は、城下町のうち親町3町のひとつである本町から、西の飛騨国(岐阜県北部)に向かう野麦街道に沿って発展した通りである。善光寺街道筋である本町は商家の集まる経済の中心で、枝町の伊勢町には、商家の他、鍛冶屋等の職人が多く住んでいたことが絵図等によって知られており、現在までに行われた発掘調査によっても実証されつつある。天正10年(1582)に小笠原貞慶によって深志城から松本城と改称され、城下町も本町等親町三町を中心に整備された。その後、野麦街道沿いのこの通りも、城下町の一部に組み込まれていった。

### (2) 発掘調査の結果

#### ① 層序

今回の調査は、開発基礎が現地表下3mまで及ぶため、遺構の存在する最下層まで掘り下げて確認することができた。その結果、1面～9面の整地層(生活面)と、北壁において屋敷境地形等を確認できた。(第3図)

#### ② 検出された遺構

今回の調査で発見された遺構は、建物址9棟、竪穴状遺構5基、土坑16基、ピット224個、溝2条、単体礎石6個、内耳鍋埋設遺構2基、集石遺構1箇所、屋敷境地形1箇所である。これらの、各面毎の主要な遺構について述べていく。

**第1面**：西側部分は攪乱によって破壊されているため残存しない。東側部分22.5㎡を調査し、検出した遺構は、建物址(布掘り基礎)1棟、ピット4個である。粘土の広がる範囲も確認したが、上部を攪乱されているため、構造及び用途については明らかにできない。

**第2面**：1面と同様、西側部分は攪乱されており残存しない。東側部分39.9㎡で検出した遺構は、建物址基礎2棟分、単体での礎石3個、土坑3基、ピット9個である。建物址はいずれも布掘り基礎構造である。土坑はいずれも火災後に焼けた不要財を投棄したものとみられ、被熱した陶磁器片及び炭化した建築部材を多く含んでいる。

**第3面**：1、2面と同様で、西側部分は攪乱されており残存しない。東側部分の44.9㎡で検出した遺構は、土坑9基、溝状遺構1条、ピット9個である。土坑のうち3基(2、3、4土)は鍛冶炉で、2土は縁石、金床石が残存し、かなり被熱している。3土は廃絶された鍛冶炉址で、内面はかなり被熱しており、また南側の張出部には、粘土を詰めてあるのが確認されている。4土は2土に切られる鍛冶炉址で、内面はかなり被熱し、また内部は焼土が充満している。このことからこの面における鍛冶炉の変遷は、4土→3土→2土となると考える。しかし調査区内からはふいご羽口は出土しておらず、また鉄滓も少ない。調査の及ばない裏手部分に廃棄土坑があると考え。(第4、5図)

**第4面**：全面87.4㎡を調査し得た。検出した遺構は建物址4棟、土坑1基、ピット9個である。建物址はいずれも礎石立ちであるが、建物範囲全体を明らかにすることはできない。このうち1建は、礎石として摩耗した石臼を転用している。土坑は鍛冶炉であり、北壁中央には、ふいごを据付けた痕跡とみられる粘土範囲も確認されている。またこの面では、幅1m弱(3尺)の屋敷境地形が確認されている。素掘りの溝であり、北側部分では焼土が充満している。奥(南)に行くに従って掘り込みは浅くなっていく。底部は三和土状になっている。(第5、6図)

**第5面**：面的な調査を行っていない。礎石を2個確認したのみである。

**第6面**：全面84.8㎡を調査し得た。検出した遺構は建物址1棟、内耳鍋埋設遺構1基、ピット6個である。建物址は東西2間南北2間以上の布掘り基礎建物址であるが、北半部は調査区外であるため不明である。特殊な遺構として、内耳鍋と土師質鏝付有脚鍋を入れ子にして埋設したものがみられたが、用途は不明である。(第7、8図)

**第7面**：面的な調査を行っていない。礎石を1個確認したのみである。

**第8面**：全面94.6㎡を調査し得た。この面で検出した遺構は建物址1棟、土坑3基、竪穴状遺構1基、溝1条、内耳鍋埋設遺構1基、ピット38個である。建物址は、布掘り基礎とみられるが、掘り方の一部を確認したのみで、全体については分からない。土坑2基は、粘土を厚く貼った特殊な遺構で、何らかの水周りに関係したものであるとみられるが用途は不明である。そのうち1土は、出土遺物が1810～1840年に属することから、その時期の遺構で、上部は攪乱によって失われたものである。竪穴状遺構は、中に杭列があることから、木枠のあるゴミ穴とみられるが、遺物は非常に少ない。この面においても内耳鍋を埋設した遺構がみられたが、こちらの方は1個体のみである。やはり用途は不明である。ピットの多くは掘立柱建物址の

柱穴とみられるが、組合わせを明らかににはできない。ただ上面の建物址の主軸方向とは明らかに異なっていると考えられるため、城下町以前の時期の建物址と考える。

**第9面：**全面93.4m<sup>2</sup>を調査し得た。この面で検出した遺構は竪穴状遺構4基、土坑1基、ピット157個である。竪穴状遺構、ピットからは、若干ながら中世に属する陶磁器が出土している。ピットの中には、柱痕の残存するもの、底部に礎石を有するものも多いことから、組合わせは明らかにできないが、掘立柱建物址の柱穴であると考えられる。また、この面で確認された竪穴状遺構、ピット群の主軸方向は、現在見られる伊勢町の町並みとは明らかに異なっていること、及び遺物から、12～13世紀の遺構であると考えられる。(第8、9図)

**検出面下：**今回は、深度について余裕があったため、9面の下について、重機による深掘りを試みた。下層は砂礫が厚く堆積し、それ以前にここに遺構が存在したとは考えられない。みられた砂礫は、女鳥羽川系統の石であると考えられ、中世以前、このあたりは女鳥羽川の氾濫原となっていた様子が窺われる。

### ③出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、陶磁器片を中心に整理用コンテナ(テンバコ)で5箱であった。木製品は、裏手部分のゴミ穴を確認できなかったため非常に少ない。金属製品、銭貨、煙管などの出土がみられた。石器は、石臼、凹石などが数点出土している。

**土器・陶磁器：**1～3面では、攪乱の影響もあり、遺物の出土は少なかったが、近代陶磁器片等の遺物が若干みられた。特記すべき物としては、2面上面焼土層において19世紀の所産とみられる風也焼の涼炉が出土しており、非常に希有な例であるといえる。これは明治期に流行した煎茶道で用いられたものと考えられるが、明治22年の大火の際に被熱したものであるとみられる。4面以下からは、瀬戸、美濃系の陶磁器の他、肥前、唐津など北部九州産の陶磁器も、大きな割合を占めて出土している。4面の出土遺物は多く、当時期のもの他、伝世品とみられる17世紀の唐津焼刷毛目茶碗、戦国期の香炉といったものが出土しているのが特徴的である。6面は、比較的出土量は少ないが、内耳鍋埋設遺構が1基検出され、内耳鍋1点、土師質の鋳付有脚鍋1点が入れ子で埋設されていた(第7図)。8、9面からは青磁、捏鉢などといった12～13世紀に属する陶磁器が、量的にはそれほど多くはないが出土している。8面でも内耳鍋埋設遺構が検出され、内耳鍋1点が埋設されていた。

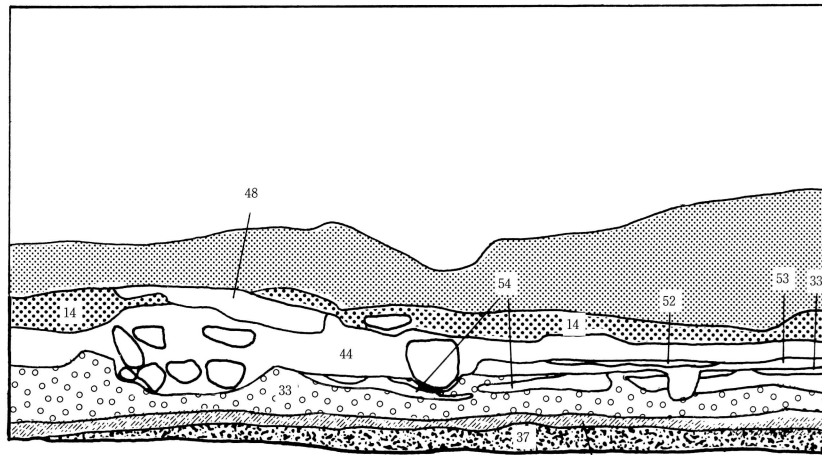
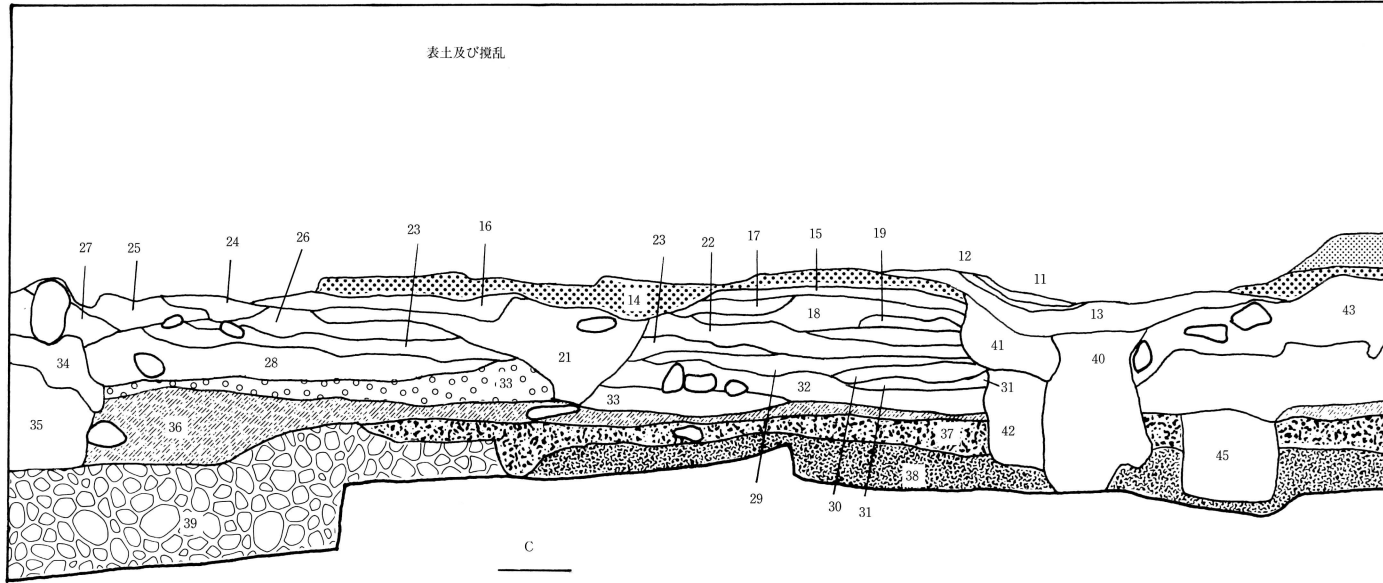
**木製品等：**屋敷地の表側の調査であったため、8面以外からはゴミ穴を検出できなかったことなどにより、出土量は極めて少ない。製品としては箸とみられるものの一部が出土したのみで、その他にはいわゆる木端が若干みられたにとどまる。また2面の土坑からは、火災によって焼けた建築部材を投棄したものがみられた。

**石製品：**石製品は、4面の1建礎石に転用された挽臼上下の他、挽臼片、搗臼片とみられるものが各1点、また凹石が6面以下の面から計4点出土している。

**金属製品：**銭貨、煙管、釘がみられる。銭貨はいずれも寛永通寶で、各検出面で出土がみられている。鍛冶炉が4基確認されているが、そこでの製品といったものは出土していない。

### (3)まとめ

今回の調査地は、近世伊勢町の東部にあたる。上面は駐車場となる以前の建物基礎が入っていたため失われているものの、4面以下では遺構の残存状態は良好である。3～4面においては、現在まで行われた伊勢町での多くの調査結果と同様、鍛冶炉を検出することができた。いずれも良く残存しており、作り替えによって変遷していく様子が明瞭に見て取れた。今回の調査では深度を大きくとることができたため、城下町成立以前の生活面を確認することができた。8面以下の遺構は近世以降の建物址などの配置とは異なり、中世的な様相を示している。竪穴状遺構を取込む掘立柱建物址の存在が考えられる。6面までで確認した近世伊勢町の建物の主軸方向は、地割が伊勢町通りに直交するため概ねN-3°-E前後を示すのに対し、9面の竪穴状遺構等ではN-21°-Eを示しており、全く違った方向を指向しているのが分かる。つまり城下町における土地区画の規制とは無関係に存在した建物であることを意味している。また遺物も、捏鉢、青磁等の中世に属する陶磁器片が出土している。これは、東に隣接する伊勢町23次調査において12～13世紀に属する山茶碗などが出土している点などと合せて、この周辺に中世の集落が存在していたことを示している。また伊勢町西寄りでは、地表下1m程で確認される最下層の女鳥羽川系統砂礫層が、今回調査地では9面以下(地表下2m以上)において確認していることから、伊勢町東部の今回調査地周辺においては、中世12～13世紀には地下水位の低下とともに微高地が発達し、集落が発達したと考えられる。しかしその後の時代については、城下町が整備される近世初頭に至るまでの間の遺構が見られないことから、室町時代以降に、再び地下水位が上昇したために集落は途絶したものと考える。今回の調査で確認された城下町下層面の遺構については、現在までにこの周辺で確認された城下町以前の遺構・遺物情報と併せて、松本城下町跡とは別した遺跡、伊勢町遺跡として認定されることとなった。

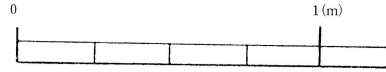
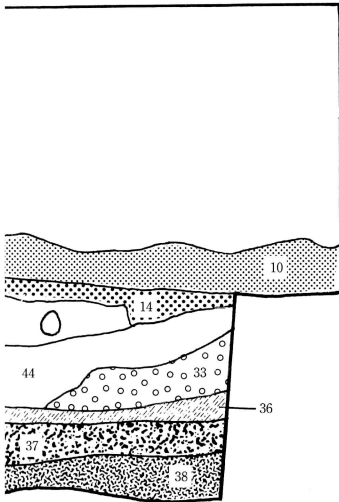


第2表 伊勢町25次北壁土層土質表

層名	土色 1	土色 2	土色 3	包合物 (直径mm、面積率%)			特記事項
				礫	炭化物	焼土	
1	2.5Y5/2	暗灰黄	シルト微量含む砂	10 5	2~5 5	1~5 5	上下の層理面に火災層、上面は1面
2	5YR4/2	灰褐					
3	2.5Y6/2	灰黄	シルト含む砂	20~50 1	2~5 1	2~5 5	
4	2.5Y7/6	明黄褐		5~10 20			
5							
6	2.5Y6/2	灰黄	シルト微量含む砂	20~30 10	5~10 10	3~5 10	60に近似、6面の流理面
7	2.5Y6/4	黄褐	シルト含む砂	5~50 5	5 1	1~5 1	
8	5Y6/1	灰	粘土・砂含むシルト	3~50 20	3~5 1	1~5 1	上面は2面
9	5YR5/4	にぶい赤褐	砂		5~10 20	5~20 30	
10	10YR7/8	黄橙	砂含むシルト		1~3 5	3~10 1	上面は3面
11							炭化物層
12	2.5Y7/4	浅黄	シルト含む砂				硬く締まる
13	2.5Y5/2	暗灰黄	砂含むシルト		3~10 5		
14	2.5Y6/3	にぶい黄	シルト含む砂	10~20 20	3~10 30		下面は4面
15	10YR4/1	褐灰	シルト	3 1			鉄分沈着
16	10YR5/2	灰黄褐	砂含むシルト		5 1		
17		黄灰	シルト含む砂				
18	10YR5/1	褐灰	シルト		5 5		
19	2.5Y6/1	黄灰	シルト含む砂				10YR7/6を30%含む
20	2.5Y5/1	黄灰	シルト含む砂		10 5		
21	10YR5/3	にぶい黄褐	細砂含むシルト	50 10			
22	2.5Y4/1	黄灰	シルト含む砂	5~10 5	5 1		22、29~32は自然為の互層堆積
23	2.5Y6/2	灰黄	砂	50 50			沈殿物
24	2.5Y6/4	にぶい黄	シルト含む砂	10 5			沈殿物
25	10YR5/1	褐灰	シルト		10 1		
26	10YR5/2	灰黄褐	砂礫層	10~50 50	5 1		
27	10YR4/1	褐灰	シルト含む砂	20~200 20			
28	2.5Y5/1	黄灰	砂・シルト含む粘土		5 5		
29	2.5Y7/6	明黄褐	砂	5 10			
30	10YR5/1	褐灰	シルト含む砂	10~30 30			
31							29とほぼ同質
32	10YR6/1	褐灰	砂含むシルト		3~10 5		沈殿物
33	N5/0	灰	粘土含むシルト	5~10 5	2 1		上面は6面
34	N4/0	灰	シルト	20 5	1~5 5		
35	5Y6/2	灰オリーブ	シルト含む砂	20 10			
36	5YR5/6	明赤褐	シルト含む細砂				沈殿物、上面は7面
37	10YR5/2	灰赤褐	シルト含む砂		2~5 20		沈殿物、上面は8面
38	2.5Y7/3	浅黄	シルト微量含む砂				沈殿物、上面は9面
39	10Y7/2	オリーブ灰	砂礫層	1~10 50			
40	5Y5/1	灰	砂含むシルト	10~50 10	1~5 5	1~3 1	



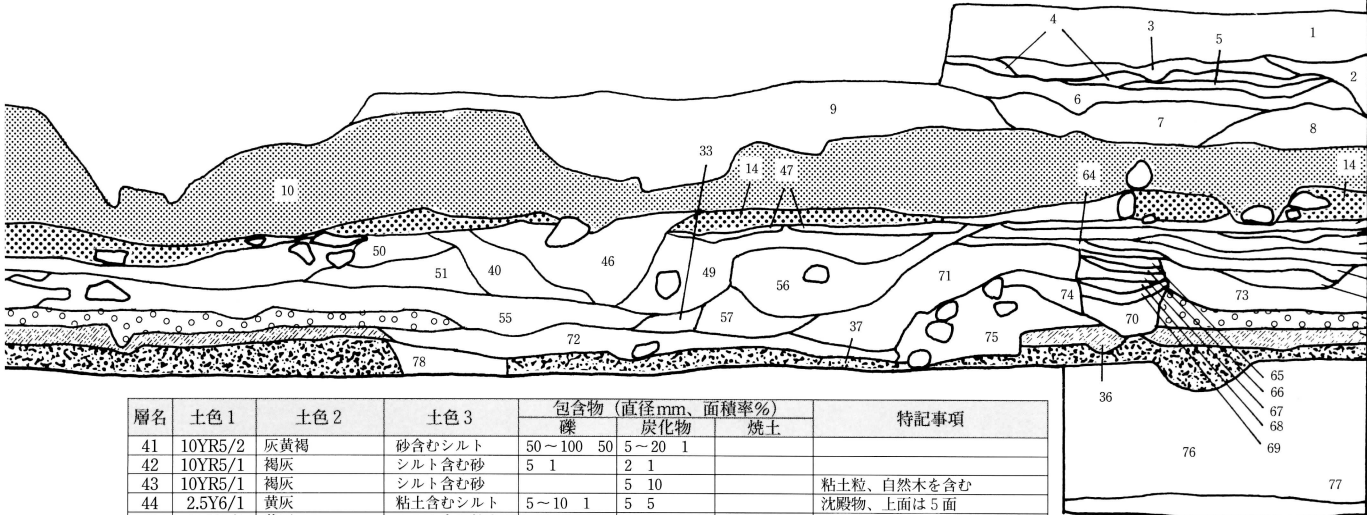
第3図 調査区北壁土層図



E

586.80m

表土及び擾乱



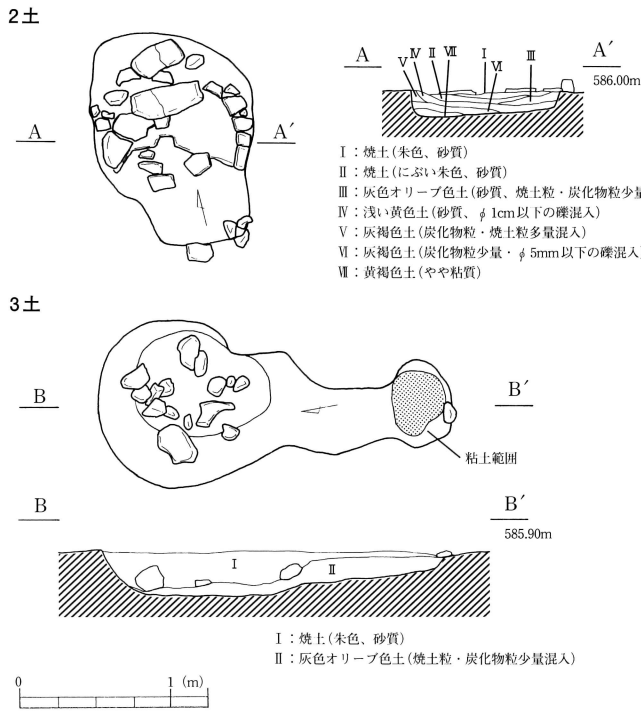
層名	土色1	土色2	土色3	包含物 (直径mm、面積率%)			特記事項	
				礫	炭化物	焼土		
41	10YR5/2	灰黄褐	砂含むシルト	50~100	50	5~20	1	
42	10YR5/1	褐灰	シルト含む砂	5	1	2	1	
43	10YR5/1	褐灰	シルト含む砂			5	10	
44	2.5Y6/1	黄灰	粘土含むシルト	5~10	1	5	5	粘土粒、自然木を含む
45	2.5Y6/1	黄灰	シルト含む粘土			2~5	5	沈殿物、上面は5面
46	10YR4/1	褐灰	シルト含む砂	5~20	20	1	10	1 1 軟らかい
47	2.5Y7/6	明黄褐	砂	30	10			
48	10YR5/2.5	灰黄褐~にぶい黄褐						
49	10YR5/1.5	褐灰~灰褐黄	シルト含む砂	1~50	30	5	10	
50	2.5Y5/1	黄灰	砂含むシルト	20~30	1	1~10	5	
51	2.5Y6/1	黄灰	砂含むシルト	20~30	10	5~10	10	2.5Y7/6の砂10%
52								厚さ1cm以下の炭化物層
53	2.5Y5/1	黄灰	砂含むシルト					沈殿物20%
54	5Y7/3	浅黄	砂					沈殿物 硬く締まる
55	7.5YR5/1	褐灰	シルト含む砂			5	5	5mmの粘土粒を5%含む43に類似
56	N5/0	灰	シルト含む砂	20~50	10	3~20	10	沈殿物
57	N4/0	灰	シルト含む砂	2~20	5			沈殿物
58	10YR6/4	にぶい黄橙	砂含むシルト			2~5	10	1 1 58~62は互層構造
59	2.5Y7/4	浅黄	砂	2~30	5			
60	N5/0	灰	砂含むシルト			2	1	1 1
61								58と同質
62								60と同質
63	10YR5/4	にぶい黄褐	砂含むシルト			20	1	1~5 10 軟らかい
64	10YR6/1	褐灰	砂含むシルト					流理5面以上
65								62に対応 65~70は互層構造
66								63に対応
67								65に対応
68								59に対応
69	N5/0	灰	粗砂含むシルト	20~30	50			非常に硬い 沈殿物
70	N5.5/0	灰	砂含むシルト	2~30	1	5	1	硬く締まる 沈殿物
71	2.5Y5/1	黄灰	砂含むシルト	20~50	5	5	5	2 1 沈殿物
72	N5.5/0	灰	シルト含む砂			1~2	1	沈殿物 流理構造
73	10YR5/2	灰黄褐	シルト含む砂			3~5	10	5 10
74	5Y6/1	灰	シルト含む砂	2~20	5			ブロック状シルト 沈殿物
75	N4.5/0	灰	シルト含む砂	150~200	50	5	1	1 1
76			砂礫層					
77			砂礫層					
78	N4/0	灰	砂含むシルト			1	1	軟らかい 沈殿物 P64

注1：土色、面積割合は新版標準土色帖に準じた。

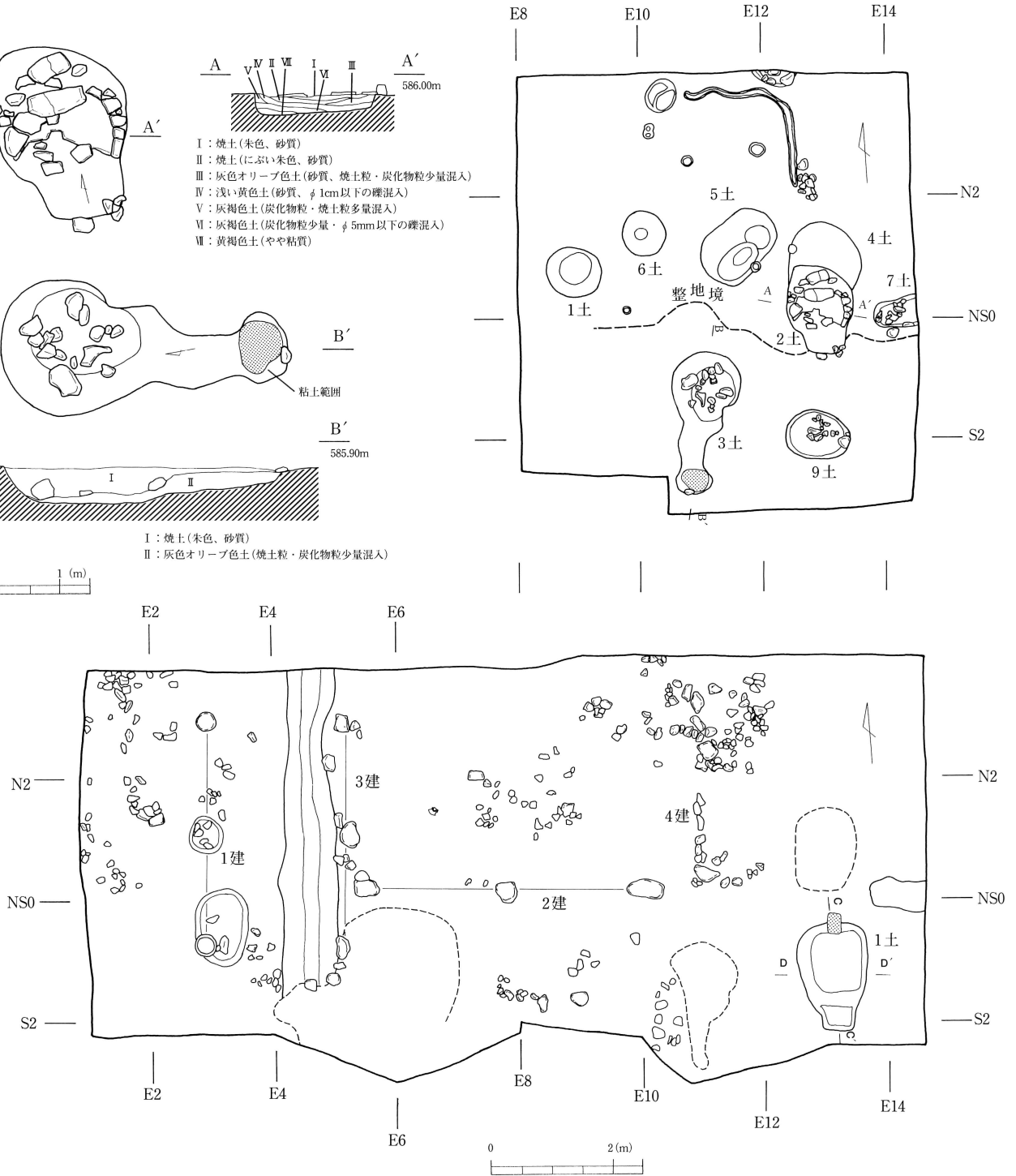
注2：礫、炭化物、焼土は粒径をmm、観察範囲内での面積割合を%で示した。

注3：土壌観察は完全な湿環境で実施した。

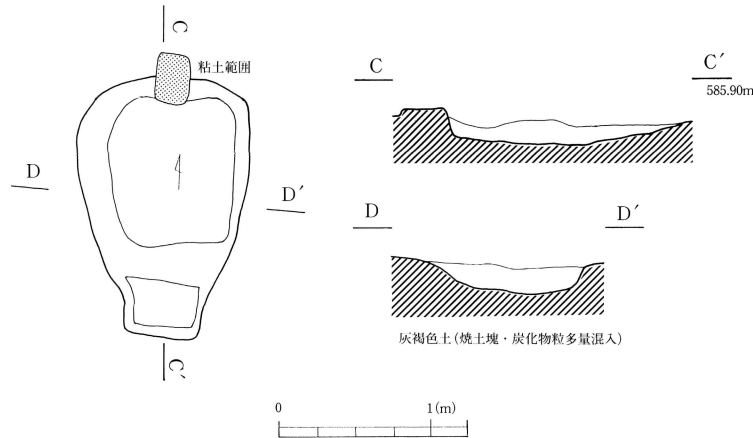
第4図 3面遺構図（鍛冶炉）



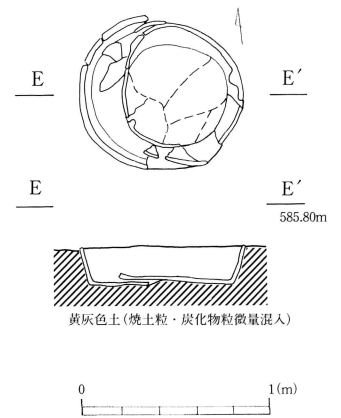
第5図 3面(上)・4面(下)遺構配置図



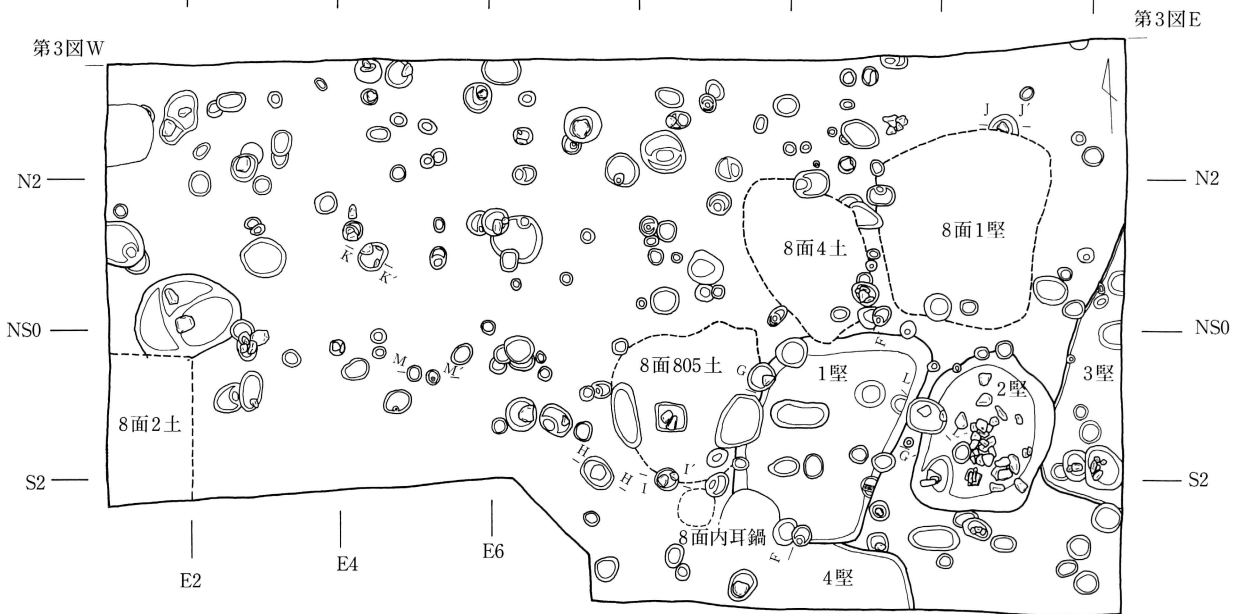
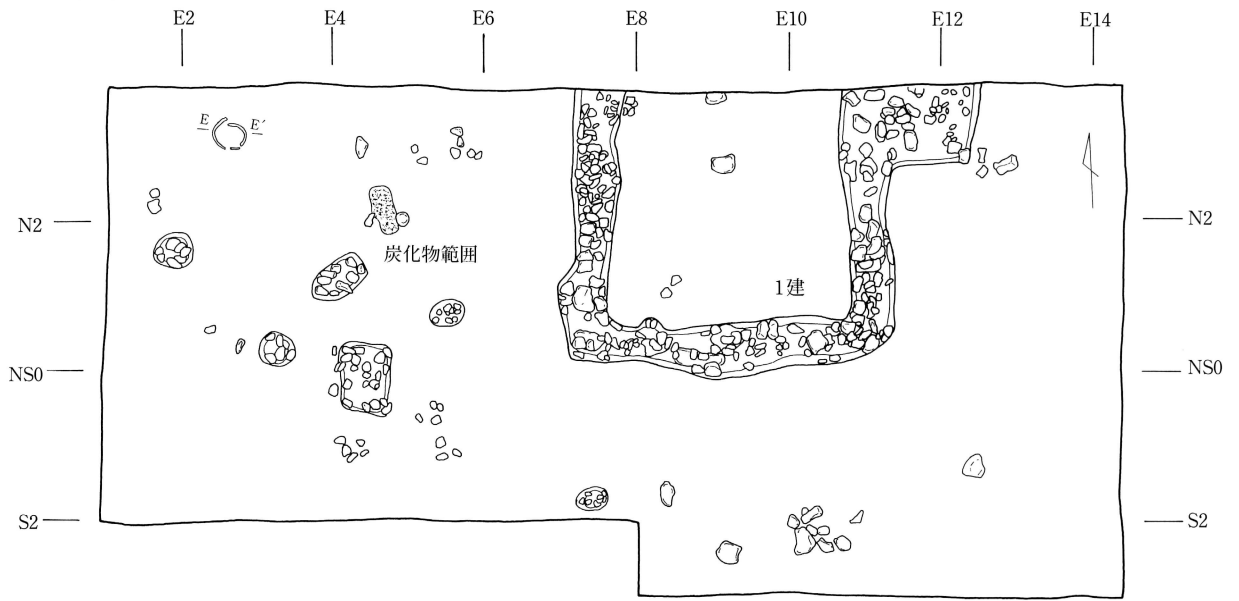
第6図 4面遺構図（鍛冶炉）



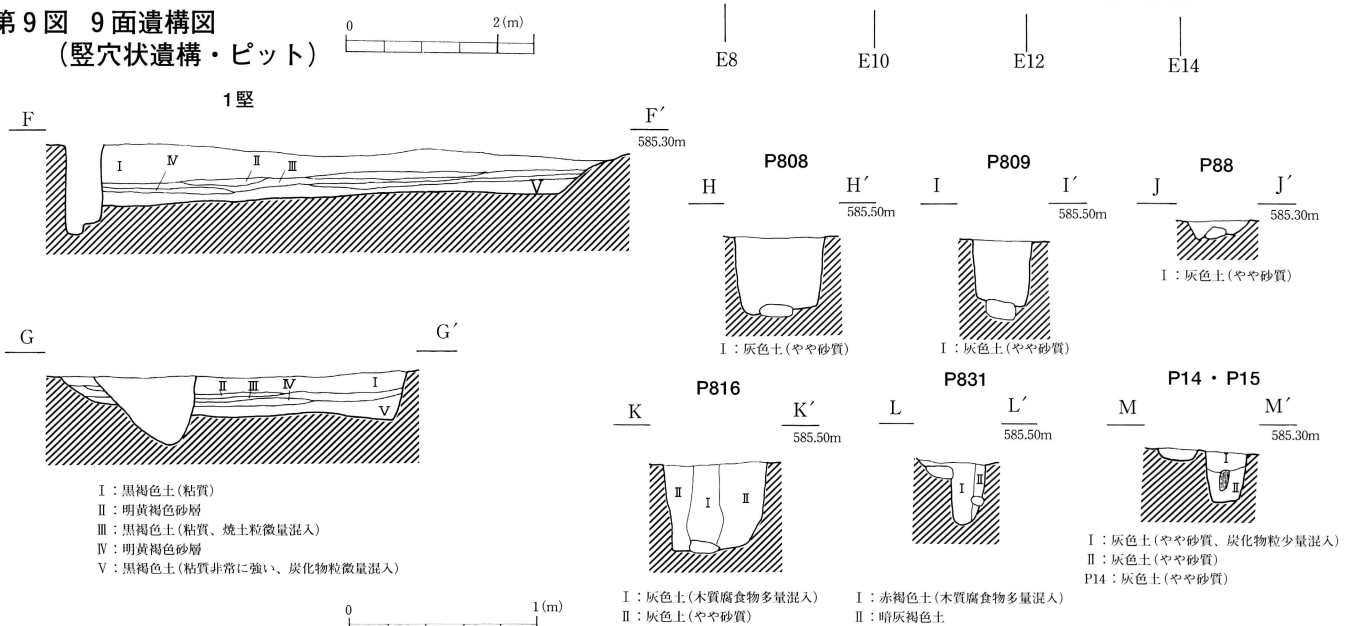
第7図 6面遺構図（内耳鍋埋設遺構）



第8図 6面(上)・9面(下)遺構配置図



第9図 9面遺構図  
(竪穴状遺構・ピット)

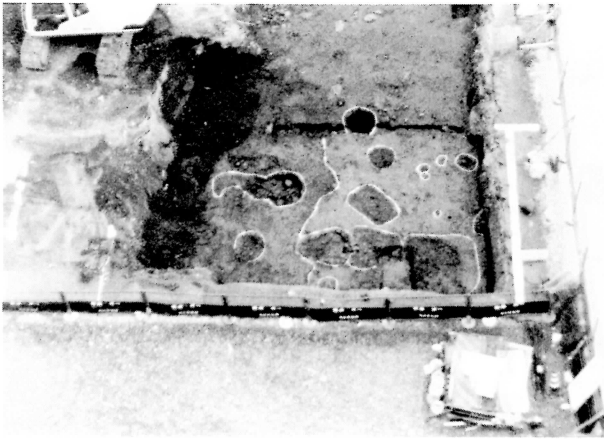




調査開始前（南から）



第2面全景（東から）



第3面全景（東から 鍛冶炉が見える）



第3面で検出した鍛冶炉



第4面全景（東から）



第4面第1号建物址（南から）



第6面全景（東から）



第6面第1号建物址（南から）

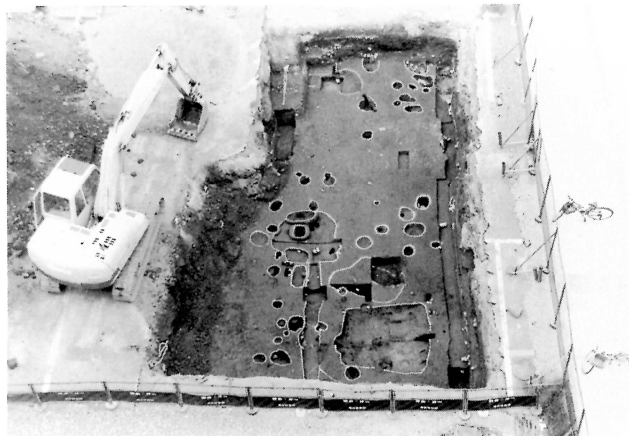
図版1 伊勢町25次遺構（1）



第6面の内耳鍋埋設遺構



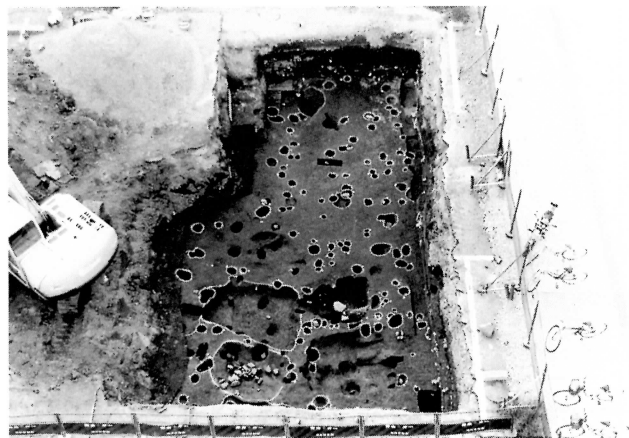
第8面の内耳鍋埋設遺構



第8面全景（東から）



第8面、礎石のあるピット P 833



第9面全景（東から）



第9面の竪穴状遺構（西から 手前から1竪、2竪、3竪）



調査区北壁土層（鎌倉～現代、700年にわたる堆積）



作業風景

図版2 伊勢町25次遺構（2）



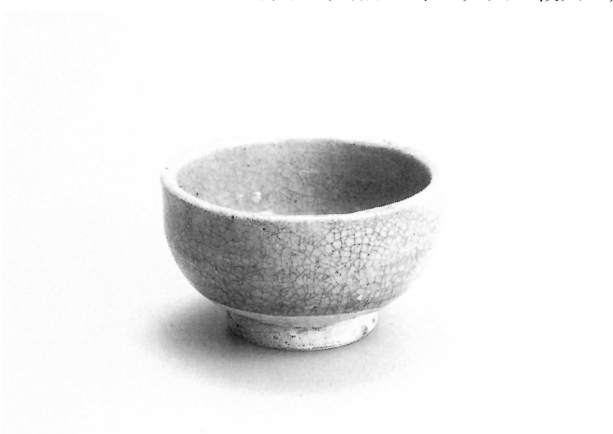
第4面 出土徳利（上面の火災層出土）



第2面 1土出土風也焼涼炉（明治22年の大火に被災か）



第8面 2土出土の染付碗（1810～1840年代）



第8面 2土出土の灰釉碗（19世紀）



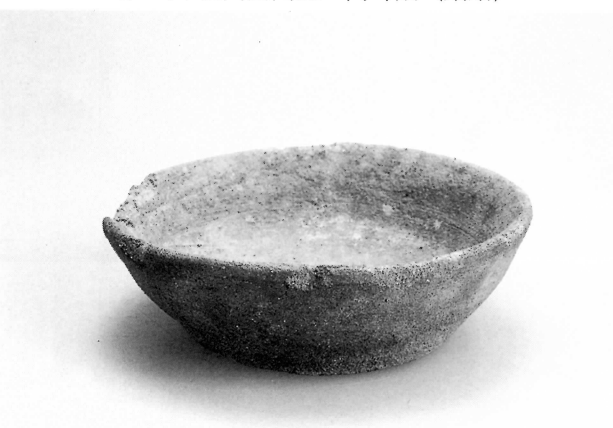
第4面 1建礎石に転用された挽臼



第4面 検出面出土の内耳鍋（焙烙）



第4面 検出面出土の播り鉢



第8面 検出面出土の灯明皿（17世紀）

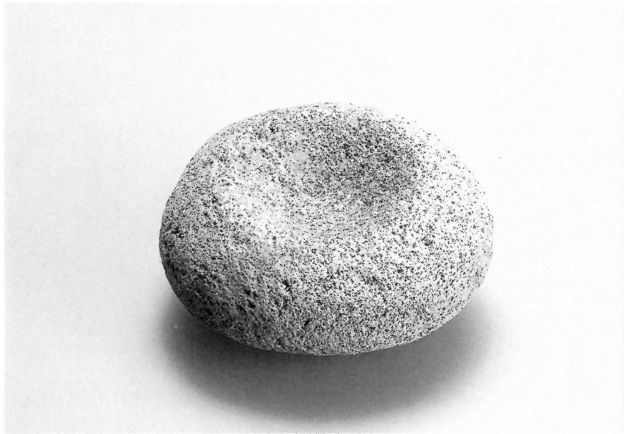
図版3 伊勢町25次出土遺物（1）陶磁器、石器



第6面内耳鍋埋設遺構内耳鍋1（内耳鍋）



第6面内耳鍋埋設遺構2（土師質鏝付有脚鍋）



第8面1 豎出土石器（凹石）



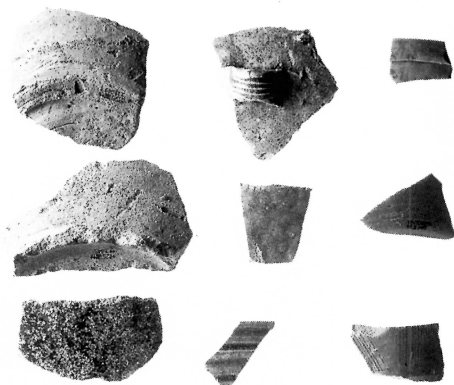
第4面 検出面出土唐津焼刷毛目茶碗（17世紀）



第8面内耳鍋埋設遺構1の内耳鍋



第4面 検出面出土の香炉（戦国時代）



12～13世紀、中世伊勢町の遺物（白磁、青磁、捏ね鉢他）



第4面 検出面出土の須恵質陶器壺（12～13世紀、珠洲焼か）

図版4 伊勢町25次出土遺物（2）陶磁器、石器

松本城下町跡 伊勢町 23・24・25 次試掘調査報告書抄録

ふりがな	まつもとじょうかまちあと いせまち							
書名	松本城下町跡 伊勢町 23・24・25 次試掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.154							
編著者名	澤柳秀利							
編集機関	松本市教育委員会（松本市立考古博物館）							
所在地	〒390-0873 長野県松本市丸の内3番7号（松本市大字中山3738番地1 TEL 0263-86-4710）							
発行年月日	平成13（2001）年3月23日（平成12年度）							
ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まつもとじょうかまちあと 松本城下町跡  いせまち 伊勢町25次	長野県松本市	20202	157	36度 13分 48秒	137度 58分 20秒	H 12.10/ 2 ～ 10/21	467.5 (全7面)	中央西 区画整理
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	城下町	中世 ～ 近世	建物址 9棟 単体礎石 6個 竪穴状遺構 5基 土坑 17基 ピット 224個 集石遺構 1基 溝状遺構 2条 土器埋設遺構 2基 屋敷境地形 1ヶ所	土器：土師質土器 陶磁器：伊万里、唐津、 瀬戸・美濃系など 金属製品：銭貨、キセル、 匙、釘 石製品：石臼、凹石		中世から近世の城下町の調査。最下層の9面からは、城下町成立以前中世（12～13C）の遺構・遺物を確認した。これにより新発見の遺跡（伊勢町遺跡）となる。また、城下町における町屋跡からは、鍛冶炉、建物址等が良好な状態で検出された。		

松本市文化財調査報告 No.154

松本城下町跡

伊勢町 23・24・25 次

— 平成12年度試掘調査報告書 —

発行日 平成13年3月23日

発行者 松本市教育委員会

〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号

印刷 株式会社 総合印刷